

---

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO **iDWR**

東京都感染症情報センター

---

# 東京都感染症週報

2010年第31週  
(8月2日～8月8日)

\* 2010年8月11日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>

平成22(2010)年8月12日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

---

# 全数把握対象疾患 報告数 2010年31週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				全国(診断週)		
		28週	29週	30週	31週	年累計	31週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							1
	結核	61	61	50	56	2443	315	14708
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ					1		4
	細菌性赤痢			1	5	45	6	104
	腸管出血性大腸菌感染症	22	11	7	17	156	167	1910
	腸チフス				1	5	1	18
	パラチフス					3		14
四類	E型肝炎					6	2	42
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		1	1		35	2	282
	エキノкокクス症							5
	黄熱							
	オウム病							7
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					5		110
	デング熱	2			2	23	10	87
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニバウイルス感染症							
	日本紅斑熱					1	1	34
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ポツリヌス症							
マラリア				1	13	2	38	
野兔病								
ライム病					1	1	7	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽					1		2	
レジオネラ症		3	2	1	24	15	411	
レプトスピラ症					2		5	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		28週	29週	30週	31週	年累計	31週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	2	5	2	4	99	17	482
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)				2	26	1	117
	急性脳炎 *2					12	2	148
	クリプトスポリジウム症			1		3		10
	クロイツフェルト・ヤコブ病					10	2	96
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1		1		13	1	77
	後天性免疫不全症候群	8	7	13	6	286	11	864
	ジアルジア症		1			9		47
	髄膜炎菌性髄膜炎							5
	先天性風しん症候群							
	梅毒	6	1	5	6	102	8	365
	破傷風					2	3	58
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		2			11	2	66
	風しん					10	1	61
麻しん	1	3		1	55	11	335	
新型※	新型インフルエンザ *3	—	—	—	—	—	—	
2010/8/11集計								

\*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※ 新型インフルエンザ等感染症

\*3 2009年4月28日に指定された。現時点では届出不要。

### (全数把握対象疾患のコメント)

#### 〈二類感染症〉

**結核 56件** 肺結核32件、その他の結核21件、肺結核及びその他の結核3件で、推定感染地は国内55件、国内及び国外(フィリピン)1件、年齢は10歳未満1件、20歳代4件、30歳代10件、40歳代2件、50歳代10件、60歳代9件、70歳代8件、80歳代10件、90歳以上2件であった。

#### 〈三類感染症〉

**細菌性赤痢 5件** 菌種はフレキシネル2件、ソンネ3件。推定感染地は国内3件、インド1件、カンボジア1件、推定感染経路は飲食物による経口感染3件、接触感染1件、その他(不明)1件であった。

**腸管出血性大腸菌感染症 17件** 患者14件、無症状病原体保有者3件。血清型・毒素型はO157(VT1)1件、O157(VT2)3件、O157(VT1VT2)8件、O157(毒素型不明)1件、O26(VT1VT2)1件、O26(毒素型不明)1件、O165(毒素型不明)1件、血清型不明(毒素型不明)1件で、そのうちO157(VT2)2件、O26(VT1VT2)1件及びO26(毒素型不明)1件はそれぞれ同居家族である。またさらに同居家族のO157(VT2)2件は共通の流通食材(食肉)を原因とする複数自治体にまたがる事例の症例である。年齢は10歳未満3件、10歳代4件、20歳代4件、30歳代3件、60歳代1件、70歳代2件であった。

**腸チフス 1件** 患者で年齢は20歳代。推定感染地はインドで、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。

#### 〈四類感染症〉

**デング熱 2件** 血清型はどちらも不明で、推定感染地はシンガポール1件、タイ1件である。

**マラリア 1件** 三日熱マラリアで、推定感染地はブラジルであった。

**レジオネラ症 1件** 肺炎型で、年齢は60歳代。推定感染地は国内で、感染経路はその他(不明)である。

#### 〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 4件** 腸管アメーバ症3件、腸管及び腸管外アメーバ症1件。推定感染地は国内3件、中国及びインド1件で、推定感染経路は飲食物による経口感染2件、その他(不明)2件であった。

**ウイルス性肝炎 2件** どちらもB型で、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(異性間)であった。

**後天性免疫不全症候群 6件** 無症候キャリア5件、AIDS1件。無症候キャリアの年齢は20歳代3件、30歳代1件、40歳代1件、AIDS患者の年齢は20歳代1件である。推定感染地は国内5件、不明1件、推定感染経路は全て性的接触(同性間5件、異性間1件)であった。

**梅毒 6件** 早期顕症梅毒Ⅰ期1件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件、無症候1件。全て推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間4件、異性間1件、不明1件)であった。

**麻しん 1件** 修飾麻しん(検査診断例)1件で、年齢は30歳代、麻しん含有ワクチン接種歴は不明であった。

※第30週該当分として、五類 梅毒 1件(無症候)の追加報告があった。

## 定点把握対象疾患 報告数 2010年31週

定点種別	対象疾患	2010年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		28週	29週	30週	31週	(定点当たり)		
小児科	RSウイルス感染症	0	5	7	18	0.13	143	150
	咽頭結膜熱	46	44	55	30	0.21		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	145	119	96	106	0.74		
	感染性胃腸炎	527	412	444	413	2.89		
	水痘	170	112	112	67	0.47		
	手足口病	690	560	464	379	2.65		
	伝染性紅斑	65	65	37	59	0.41		
	突発性発しん	103	86	99	89	0.62		
	百日咳	16	12	13	17	0.12		
	ヘルパンギーナ	1,398	954	716	467	3.27		
	流行性耳下腺炎	153	138	129	118	0.83		
	不明発しん症 (注1)	14	24	17	19	0.13		
MCLS (川崎病) (注1)	2	0	0	3	0.02			
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	14	7	5	14	0.05	278	290
眼科	急性出血性結膜炎	1	0	0	0	0.00	37	39
	流行性角結膜炎	14	18	15	9	0.24		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	0	0	0	0	0.00	24	25
	無菌性髄膜炎	2	0	0	3	0.13		
	マイコプラズマ肺炎	5	3	7	11	0.46		
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0	0	0	0	0.00		

2010/8/11集計

(注1) 不明発しん症、MCLS (川崎病) は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

### (定点把握対象疾患のコメント)

- ・手足口病の定点当たり報告数は3週連続して減少した。しかし現在も警報状態が続いており、注意が必要である。
- ・百日咳の定点当たり報告数は微増した。暦年の累計報告数としては、感染症法施行(1999年)以来最大となっている。
- ・ヘルパンギーナの定点当たり報告数は3週連続して減少した。しかし現在も警報状態が続いており、注意が必要である。

### (定点医療機関からのコメント)

江東区保健所管内定点医療機関

- ・感染性胃腸炎: カンピロバクター腸炎成人1名。

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2010年31週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	1			6	2	4		2		2
～11か月	2	3	3	53	5	27		29		35
1歳	8	9	8	51	10	95	2	42		118
2歳	3	4	6	46	9	75	2	6		96
3歳		5	10	39	7	66	10	4		73
4歳		3	16	23	20	38	7	1		53
5歳			6	29	6	26	18			30
6歳		3	10	19	4	10	8			14
7歳		2	10	14	1	6	3		1	17
8歳			13	13	2	9	5		1	6
9歳			3	16		4	2		1	5
10～14歳		1	6	37	1	8	1	1	5	9
15～19歳				9		3				1
20～29歳	4		15	58		8	1	4	9	8
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	18	30	106	413	67	379	59	89	17	467
先週比	11	-25	10	-31	-45	-85	22	-10	4	-249

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月		2				
～11か月	3	4	1			
1歳	8	8	1			
2歳	12	1				
3歳	12	1	1			
4歳	21	1				
5歳	18	1		1		
6歳	8					
7歳	15	1		1		
8歳	8			2		
9歳	4					
10～14歳	5					
15～19歳				1		
20～29歳	4			2		2
30～39歳				2		
40～49歳				3		1
50～59歳						1
60～69歳				1		2
70～79歳				1		3
80歳以上						
合計	118	19	3	14		9
先週比	-11	2	3	9		-6

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

### 全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2010年31週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		
30～39歳		1
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	0	1

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2010年31週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				9		1				3
中央区				6		2		4		7
みなと	7		5	23	1	28	2	3	7	9
新宿区			3	9	2	9	1	6	1	15
文京			1			3				1
台東		1		8	3	6	2	4		10
墨田区		1		5		4		3		4
江東区			4	25	4	23	3	2		9
品川区		1	1	13		19	1	1		13
目黒区			1	3		3				2
大田区	8	8	5	37	6	26		4		39
世田谷			8	12	3	22	1	4		30
渋谷区		2		11		3	1	2		9
中野区			8	26	4	11	3			18
杉並				24		21	8	1	1	6
池袋		2		12		4		1		8
北区			1	10		8	3	8	1	18
荒川区	2	1		14	4	7		2		15
板橋区			1	8	1	14		2	1	4
練馬区		1	2	7	1	21	7	5		29
足立			21	10		9	7			11
葛飾区	1	1		2	3	6	2	4		18
江戸川		5	1	4	3	16	2	7	6	37
八王子市			20	28	4	23	1	12		13
西多摩		4	6	11	3	8	2	4		9
南多摩			3	13	5	13	3	2		23
町田			5	35	10	18	1	4		23
多摩立川				13	5	9	4	2		9
多摩府中			1	10	1	16	1			25
多摩小平		3	6	25	4	26	4	2		41
島しょ			3							9
東京都合計	18	30	106	413	67	379	59	89	17	467

全数把握対象疾患  
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2010年31週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区				1		1
みなと	9		1			
新宿区	4					1
文京	1					
台東	2					
墨田区	3	1				
江東区	14	2	1			
品川区	1					
目黒区						
大田区	2					
世田谷	4			1		2
渋谷区						
中野区	2	1				1
杉並	4			3		
池袋	1					
北区						
荒川区	1		1			
板橋区	2					
練馬区	3					
足立	2	7				1
葛飾区	5					
江戸川	7			3		1
八王子市	14	2				
西多摩						
南多摩	7					
町田	8	4		5		
多摩立川	3					
多摩府中	10					1
多摩小平	7	2		1		1
島しょ	2					

東京都合計	118	19	3	14	-	9
-------	-----	----	---	----	---	---

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		1
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	0	1
-------	---	---

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2010年31週

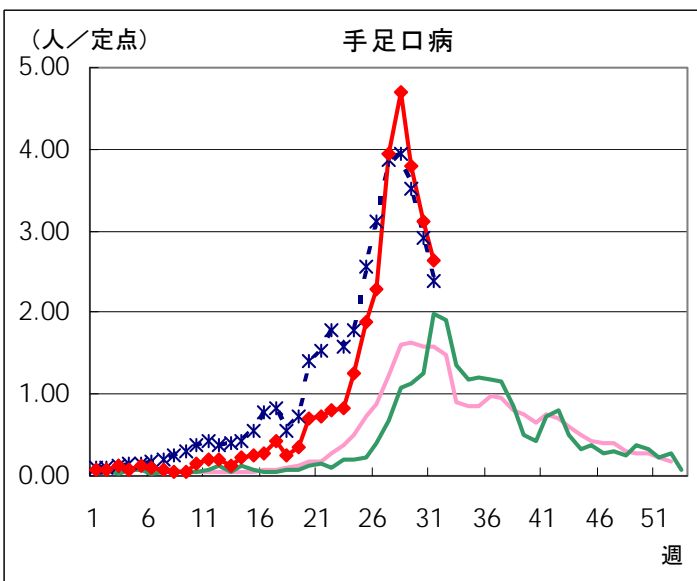
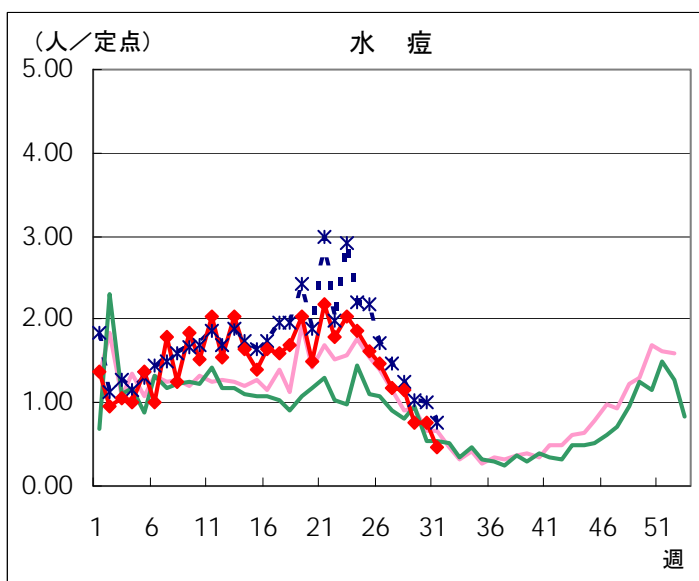
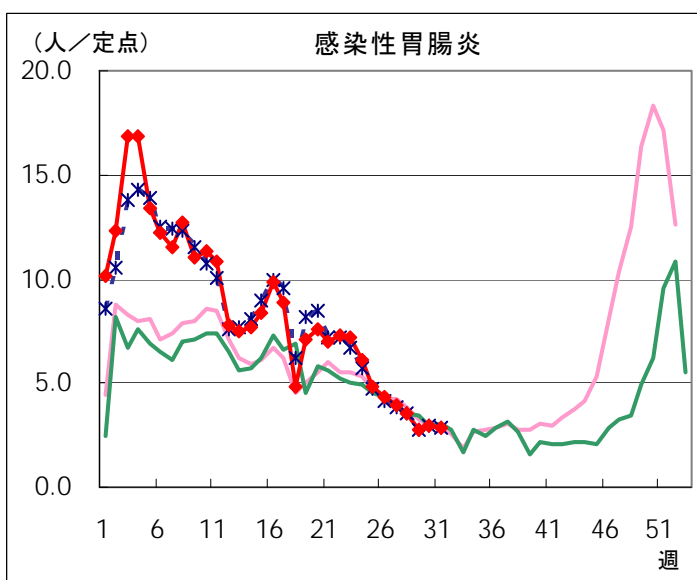
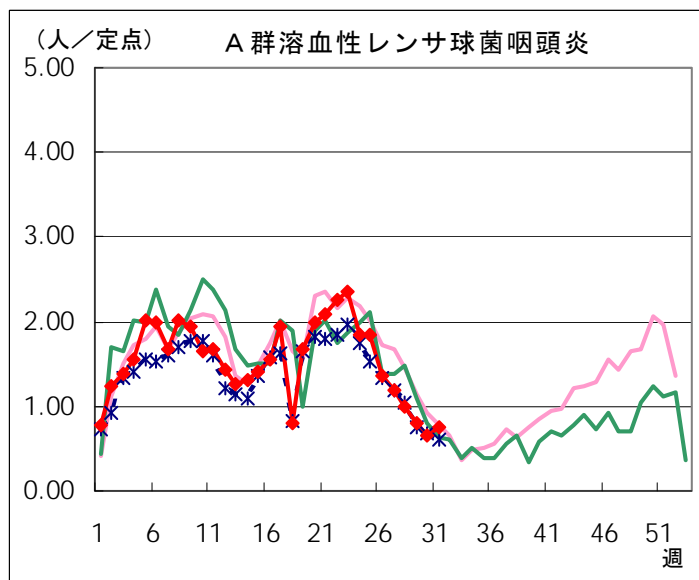
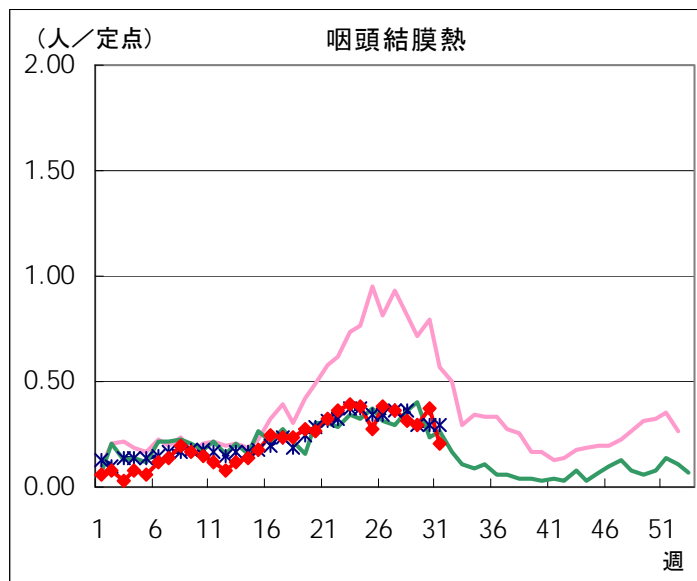
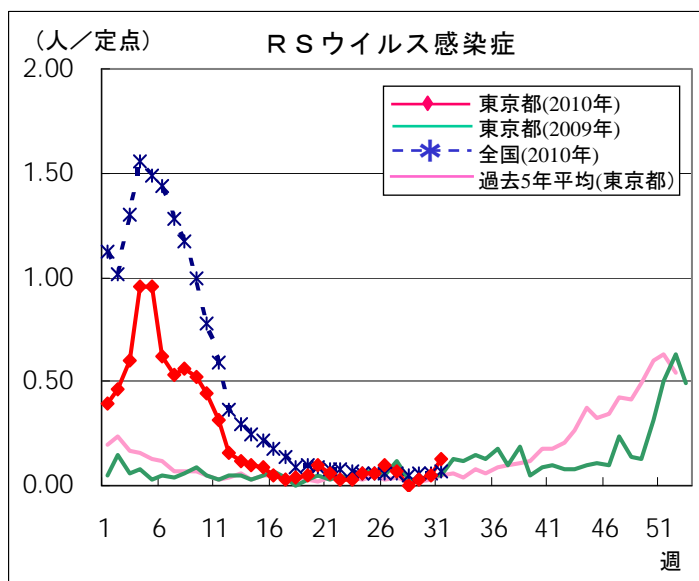
定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				3.00		0.33				1.00
中央区				2.00		0.67		1.33		2.33
みなと	1.17		0.83	3.83	0.17	4.67	0.33	0.50	1.17	1.50
新宿区			0.50	1.50	0.33	1.50	0.17	1.00	0.17	2.50
文京			0.50			1.50				0.50
台東		0.33		2.67	1.00	2.00	0.67	1.33		3.33
墨田区		0.33		1.67		1.33		1.00		1.33
江東区			1.00	6.25	1.00	5.75	0.75	0.50		2.25
品川区		0.17	0.17	2.17		3.17	0.17	0.17		2.17
目黒区			0.33	1.00		1.00				0.67
大田区	0.89	0.89	0.56	4.11	0.67	2.89		0.44		4.33
世田谷			1.00	1.50	0.38	2.75	0.13	0.50		3.75
渋谷区		0.50		2.75		0.75	0.25	0.50		2.25
中野区			1.33	4.33	0.67	1.83	0.50			3.00
杉並				4.00		3.50	1.33	0.17	0.17	1.00
池袋		0.40		2.40		0.80		0.20		1.60
北区			0.33	3.33		2.67	1.00	2.67	0.33	6.00
荒川区	1.00	0.50		7.00	2.00	3.50		1.00		7.50
板橋区			0.17	1.33	0.17	2.33		0.33	0.17	0.67
練馬区		0.17	0.33	1.17	0.17	3.50	1.17	0.83		4.83
足立			4.20	2.00		1.80	1.40			2.20
葛飾区	0.25	0.25		0.50	0.75	1.50	0.50	1.00		4.50
江戸川		1.00	0.20	0.80	0.60	3.20	0.40	1.40	1.20	7.40
八王子市			5.00	7.00	1.00	5.75	0.25	3.00		3.25
西多摩		0.80	1.20	2.20	0.60	1.60	0.40	0.80		1.80
南多摩			0.75	3.25	1.25	3.25	0.75	0.50		5.75
町田			1.25	8.75	2.50	4.50	0.25	1.00		5.75
多摩立川				2.17	0.83	1.50	0.67	0.33		1.50
多摩府中			0.10	1.00	0.10	1.60	0.10			2.50
多摩小平		0.50	1.00	4.17	0.67	4.33	0.67	0.33		6.83
島しょ			3.00							9.00
東京都	0.12	0.20	0.72	2.79	0.45	2.56	0.40	0.60	0.11	3.16

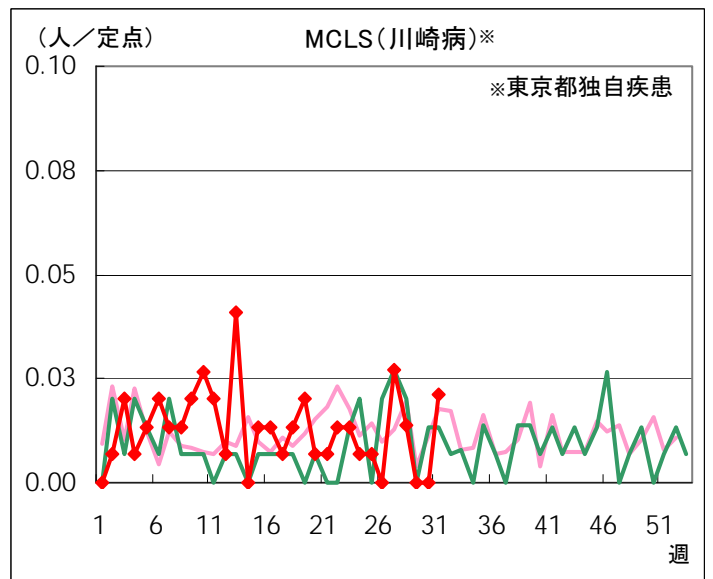
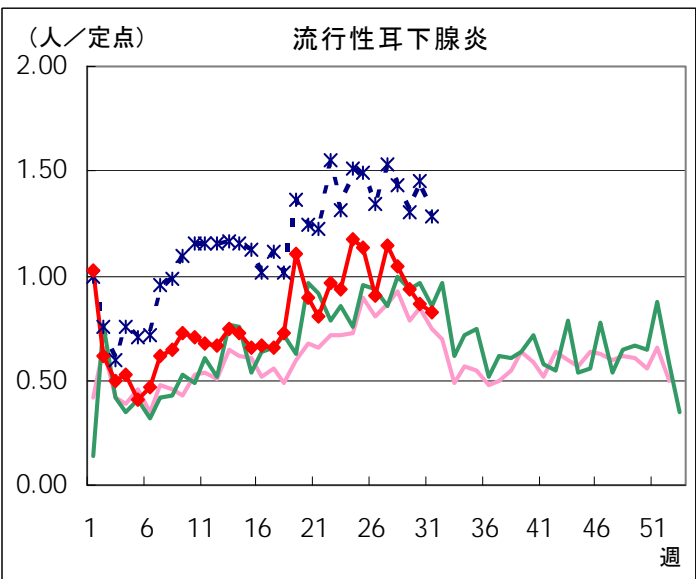
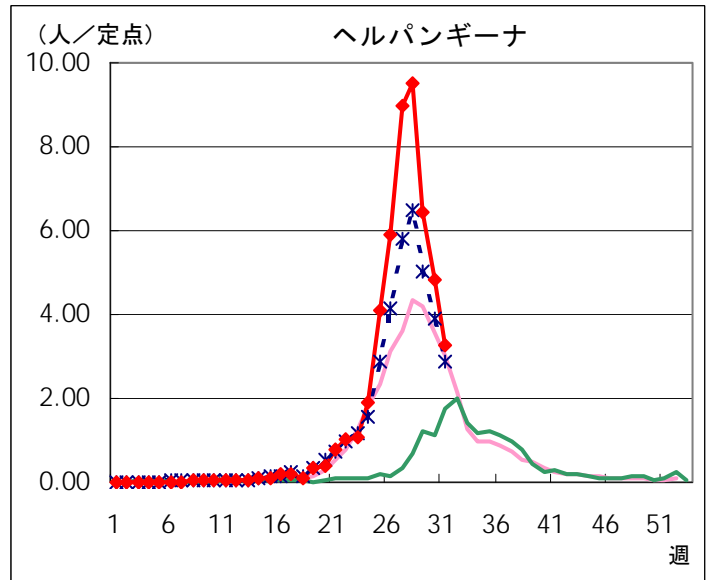
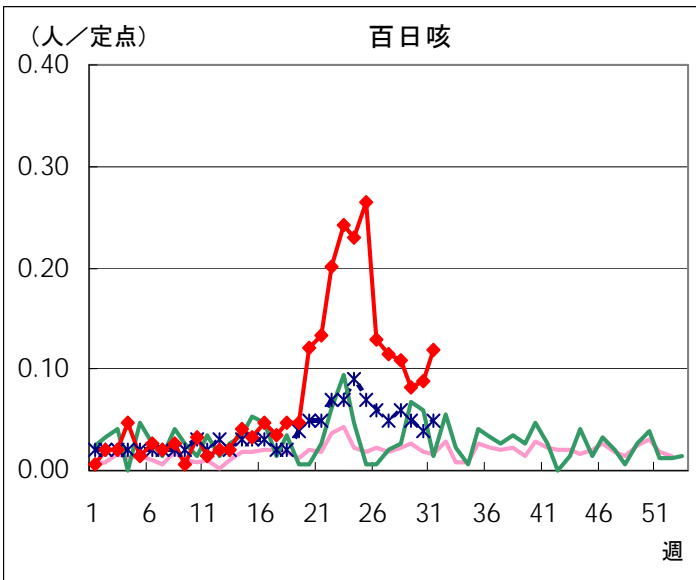
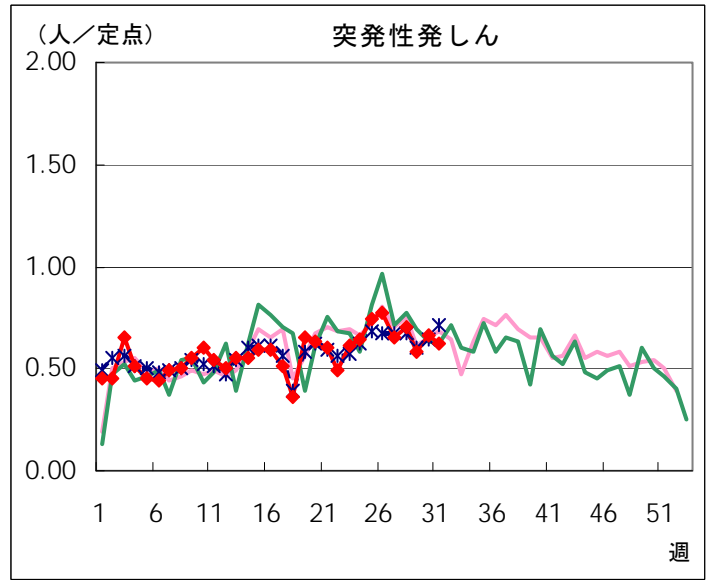
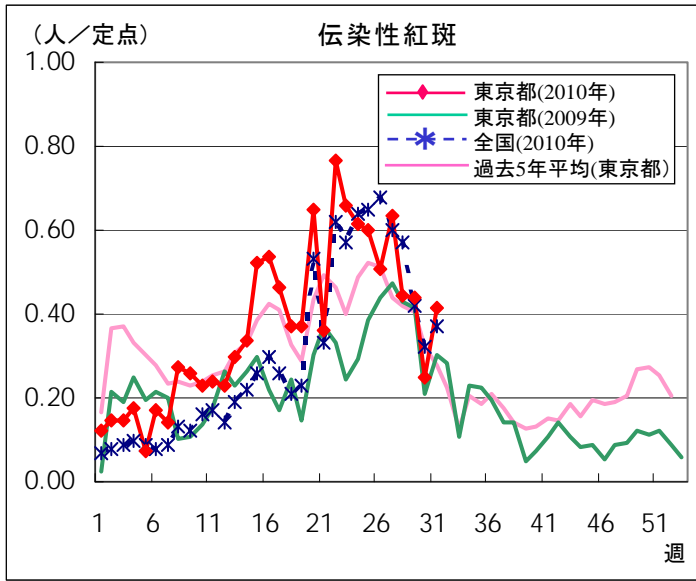


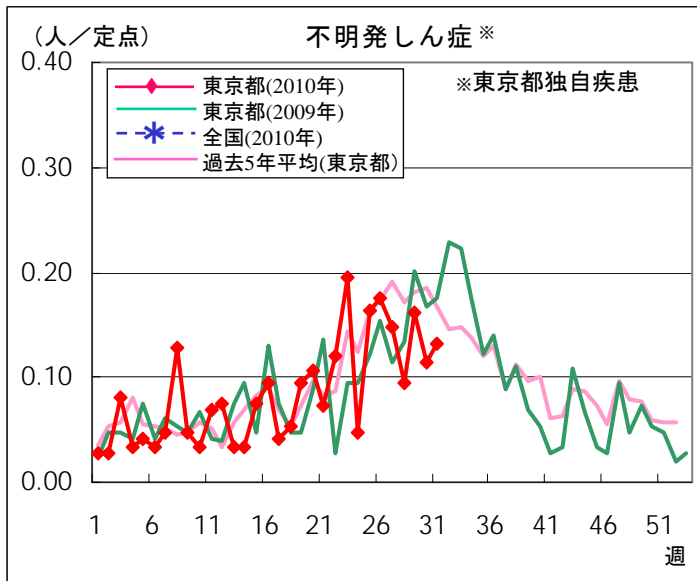
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区				0.25		1.00
みなと	1.50		0.17			
新宿区	0.67					0.50
文京	0.50					
台東	0.67					
墨田区	1.00	0.33				
江東区	3.50	0.50	0.25			
品川区	0.17					
目黒区						
大田区	0.22					
世田谷	0.50			0.07		1.00
渋谷区						
中野区	0.33	0.17				1.00
杉並	0.67			0.25		
池袋	0.20					
北区						
荒川区	0.50		0.50			
板橋区	0.33					
練馬区	0.50					
足立	0.40	1.40				0.50
葛飾区	1.25					
江戸川	1.40			0.25		0.50
八王子市	3.50	0.50				
西多摩						
南多摩	1.75					
町田	2.00	1.00		0.56		
多摩立川	0.50					
多摩府中	1.00					0.33
多摩小平	1.17	0.33		0.07		0.50
島しょ	2.00					
東京都	0.80	0.13	0.02	0.05	-	0.23

# 定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2010年31週現在

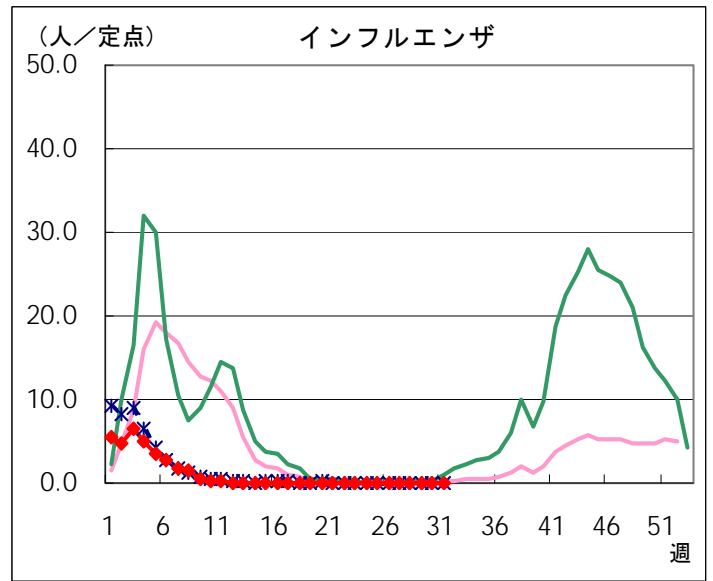
## ◆ 小児科定点



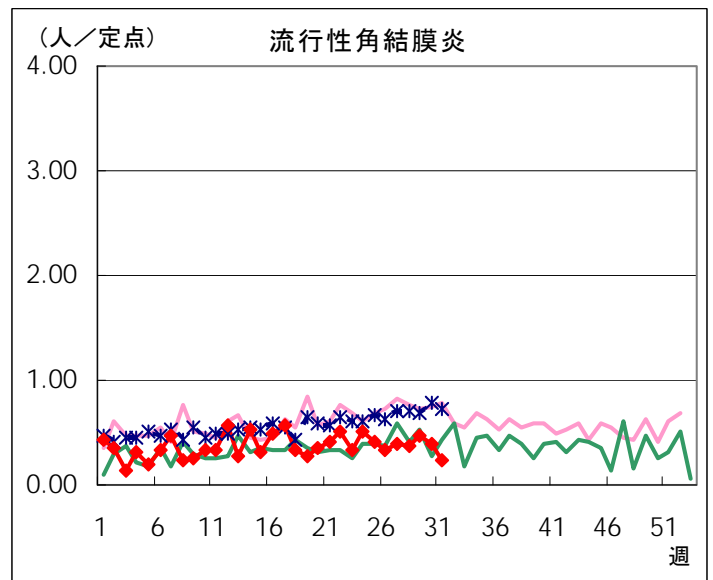
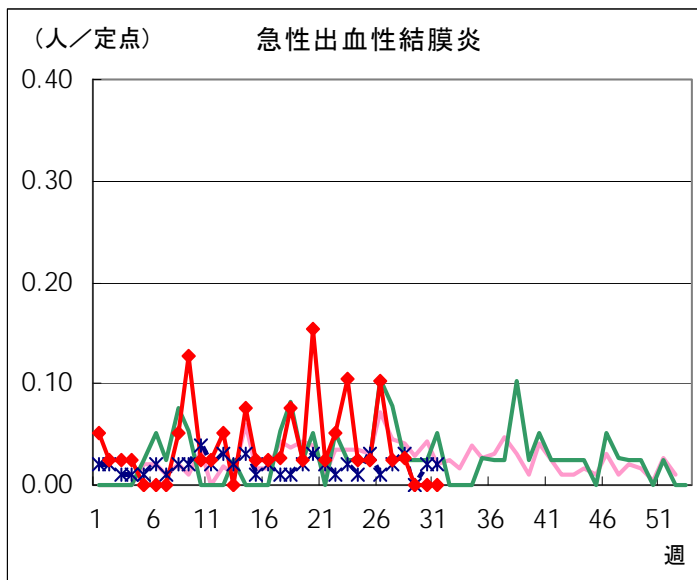




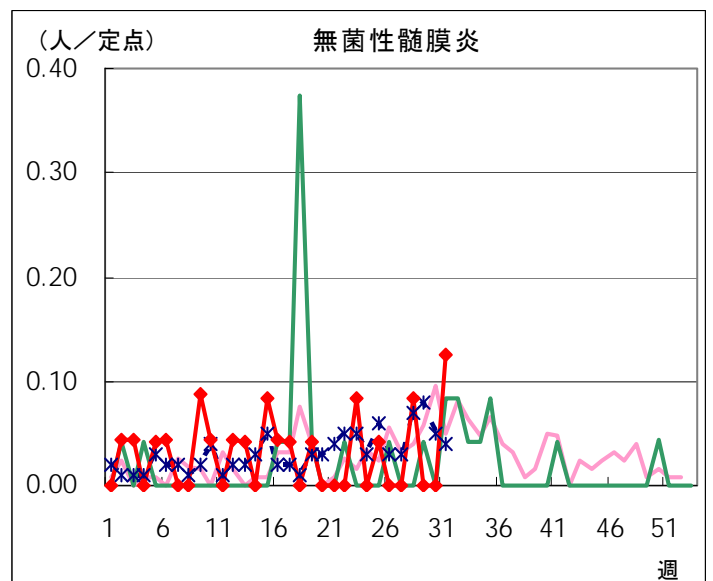
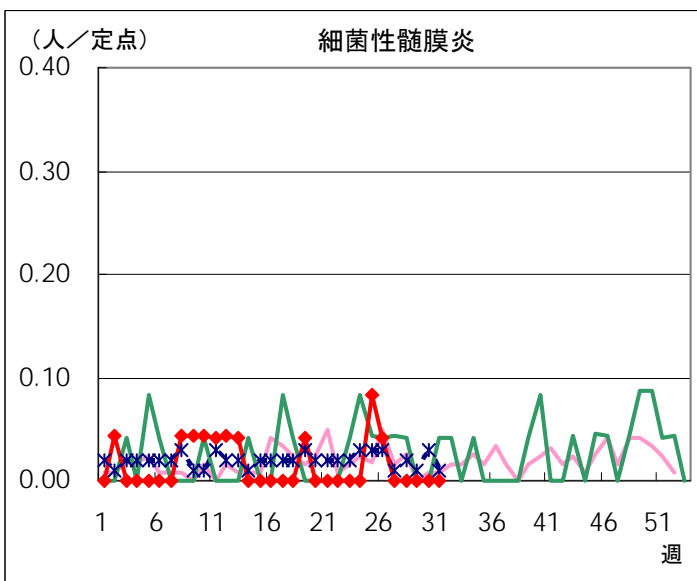
◆ インフルエンザ定点

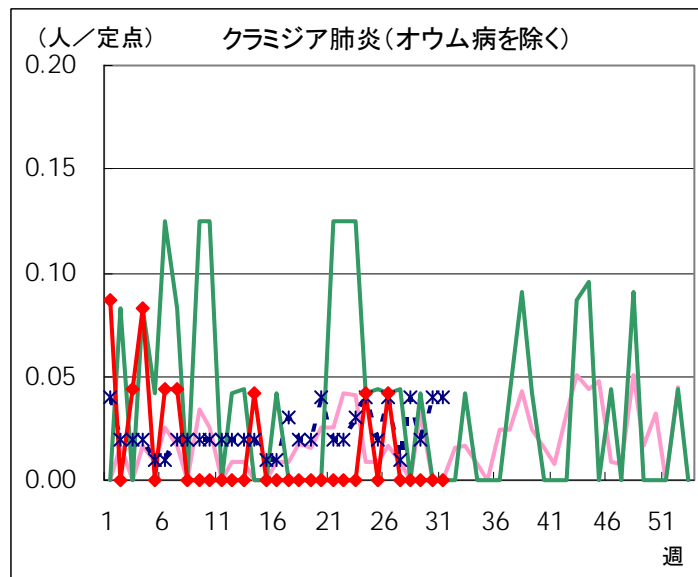
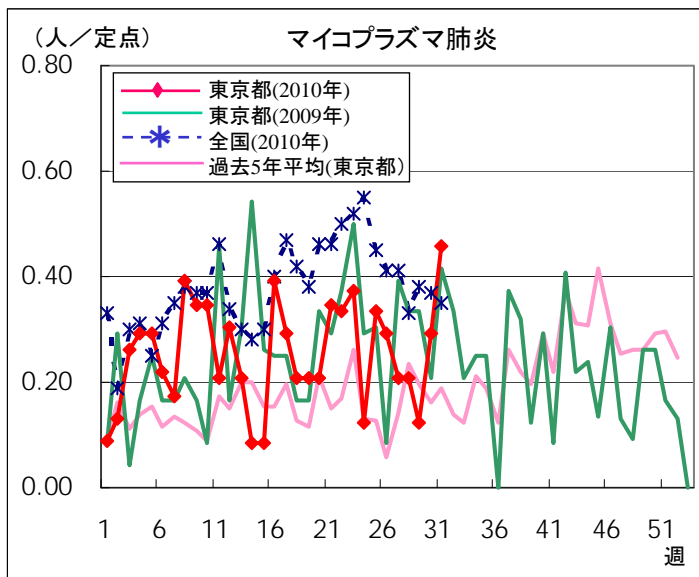


◆ 眼科定点

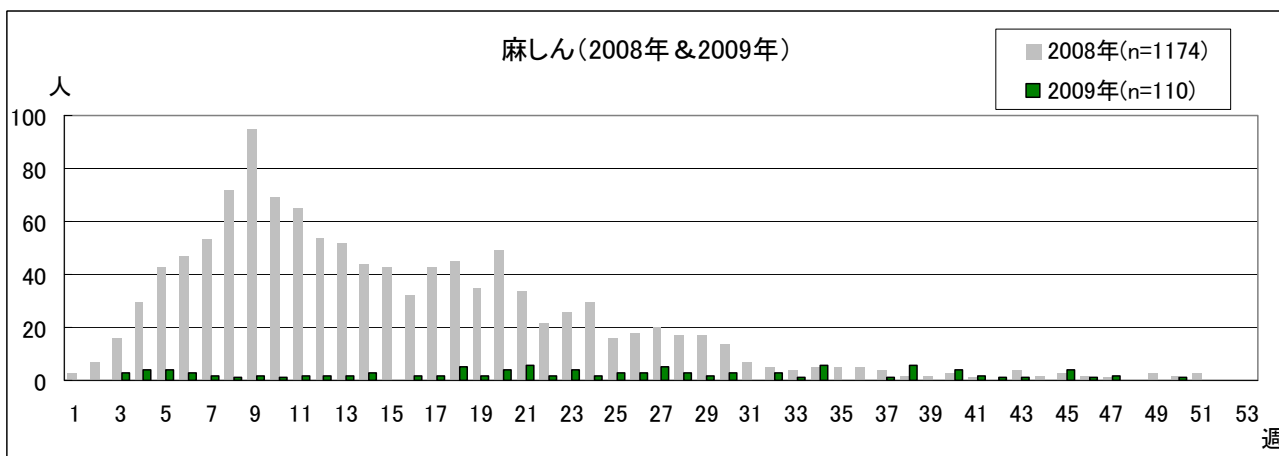
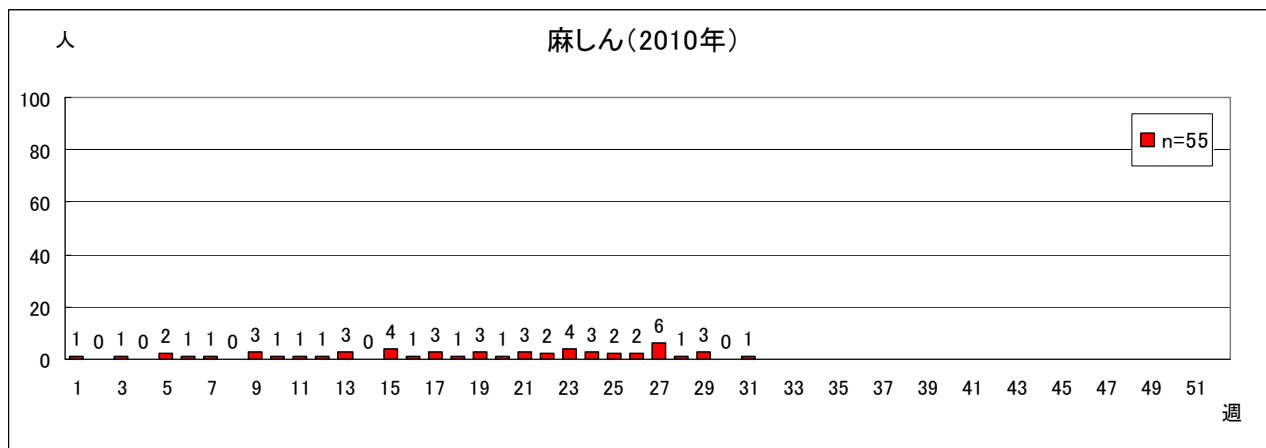


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2010年31週現在



## 定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況

\*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
7/12	手足口病・膿痂しん・水痘	3	水疱内容物	エンテロウイルス	遺伝子
			咽頭拭い液		
7/15	マイコプラズマ肺炎	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/22	髄膜炎	1M	髄液	エンテロウイルス	
7/23	手足口病・伝染性膿痂しん	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/23	ヘルパンギーナ	11M	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/23	不明発しん症	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/24	ヘルパンギーナ	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/24	手足口病	11M	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス7型	
7/24	流行性耳下腺炎	14	咽頭拭い液	ムンプスウイルス	
7/24	突発性発しん	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
7/24	無菌性髄膜炎	7	髄液	ムンプスウイルス	
7/24	急性細気管支炎	4	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス	
7/24	手足口病	29	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/24	不明発しん症	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/26	けいれん重積	10	髄液	アデノウイルス	
7/26	手足口病・水痘	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/26	不明発しん	記載なし	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
7/26	単純疱疹しん(鼻腔)	記載なし	咽頭拭い液	単純ヘルペスウイルス	
7/26	前脊髄動脈症候群	72	咽頭拭い液	EBウイルス	
7/26	急性咽頭炎	1	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス	
7/26	咽頭炎	5	咽頭拭い液	ライノウイルス	
7/26	川崎病	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、エンテロウイルス サイトメガロウイルス	
7/26	急性咽頭炎	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
7/27	咽頭結膜熱	6	咽頭拭い液	エンテロウイルス	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
7/27	急性咽頭炎・結膜炎	2	咽頭拭い液	アデノウイルス、エンテロウイルス	遺伝子
7/28	手足口病	11M	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/28	無菌性髄膜炎	1M	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/28	不明熱	12	咽頭拭い液	ライノウイルス	
7/28	急性咽頭炎・結膜炎	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/29	髄膜炎	1M	髄液	アデノウイルス	
7/29	不明発しん症	8M	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/29	不明発しん症	4M	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/29	急性咽頭炎	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/29	急性咽頭炎	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/30	不明発しん症	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
7/30	単純疱疹しん(歯肉炎)	3	咽頭拭い液	単純ヘルペスウイルス	
7/30	伝染性紅斑	3	咽頭拭い液	アデノウイルス	
7/30	麻しん・不明発しん症	2	咽頭拭い液	EBウイルス マイコプラズマ・ニューモニア	

◇積極的疫学調査による搬入検体

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
4/27	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	68	菌株(血液由来)	<i>Enterococcus faecium</i> (vanB遺伝子保有)	同定 遺伝子

※18週報告の全数把握対象疾患症例からの検体

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型

検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm(新型)*
30週	0	0	0	0
今シーズン累計**	1	2	9	734

\* : 新型インフルエンザウイルス(ブタ由来インフルエンザウイルスA/H1N1)。

\*\* : 2009-2010シーズンの開始は第36週(8月31日~9月6日)。

## 病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2010年							
		23週	24週	25週	26週	27週	28週	29週	30週
ウイルス	アデノウイルス	3	3	1	3	1	9	2	6
	ライノウイルス	8	4	2	2	2	5	3	3
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群							1	
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	3	8	10	9	10	17	16	24
	単純ヘルペスウイルス								2
	水痘・帯状疱疹ウイルス					1			
	ヘルペスウイルス6/7	3	2		4	8	6	10	4
	EBウイルス	2	4	4	2	1	3	1	2
	サイトメガロウイルス	2	1		1			1	1
	ムンプスウイルス			1		1	2		2
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19	1		2	3	2	3	2	
	RSウイルス			1					
	ノロウイルス								
	ロタウイルス								
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3						1		
	インフルエンザウイルスB								
新型インフルエンザウイルスAH1pdm				1	1				
デングウイルス(抗体を含む)	1								
その他のウイルス	4	8	10	6	3	3	2	2	
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌				1				
	溶血性レンサ球菌		4			3			
	その他の細菌	5			1	3		1	
その他の病原体			1		1				1



病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2010年23週～2010年30週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	14	57	67	18	32	4		8	10	20	13	43	11	1	3		150	
ウイルス	アデノウイルス		7	2		2	1	1		3	3	1	1				7	
	ライノウイルス	1	8	3					2		3	2	1		1		8	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群	1																
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス		18	8	4	4	2	1	9	14		14	1		1		21	
	単純ヘルペスウイルス																	2
	水痘・帯状疱疹しんウイルス													1				
	ヘルペスウイルス6/7						2			11		13						11
	EBウイルス		3	2								1	2	2				9
	サイトメガロウイルス								1				1	1				3
	ムンプスウイルス					1								4				1
	麻疹しんウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											6	4					3
	RSウイルス			1														
	ノロウイルス																	
	ロタウイルス																	
	インフルエンザウイルスAH1																	
インフルエンザウイルスAH3	1																	
インフルエンザウイルスB																		
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	2																	
デングウイルス(抗体を含む)																	1	
その他のウイルス		7	21	3											1		6	
細菌	カンピロバクター																	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																1	
	溶血性レンサ球菌		7															
その他の細菌			10															
その他の病原体			2														1	

## <感染症豆知識>

### グルメと食中毒

新鮮な魚介類であれば生食が一番であるとの通念からか、肉の生食あるいは生に近い肉の料理を抵抗なく受け入れる消費者は多い。

むしろ食経験のない珍しいごちそうとして、あるいは「精がつく」等の根拠のない理由で食べ、人にも勧める。食品添加物や遺伝子組換え食品等に対する警戒心とは相矛盾する感覚であり、理解に苦しむと同時に、事例に遭遇するたびに啓発の必要性を痛感する。

鶏肉の生に近い料理でカンピロバクター食中毒、牛レバーの刺身で腸管出血性大腸菌食中毒、果ては豚肉やスッポンの刺身でサルモネラ食中毒など、当然の結果として健康危害が多発している。

成形肉やモツまでレア（中心部生）が珍重され、飲食店チェーンでの腸管出血性大腸菌食中毒の散発・広域的発生事例が相次いだ。

特に、抵抗力のない子供に肉を生で、あるいは加熱不足で食べさせる危険性を早急に保護者に周知しなければならない。

話は変わるが、地域独特の安全な処理方法・食べ方を確立した食品もある。ある種の海藻は石灰処理を行い食用とするが、都会から遊びに来た人が無処理で食して重大な健康危害を起こした事例がある。ナチュラルチーズのある種類では、リステリアが高率に検出される外皮を除去して食べるのが常識である。伝統的な生ハムは豚モモを冷暗所で長期間かけて乾燥熟成させ、病原微生物を制御した先人の知恵が結晶した食肉製品であり、単なる生豚肉とは似て非なるものである。

真のグルメ、グルメとは背景の文化・風土や科学も含めて自己の責任で賞味すること、賞味できる人のことと考える。

（文責 東京都福祉保健局 山下千恵）